

令和8年度 学力向上のための重点プラン【中学校】新宿区立牛込第一中学校

■ 学校の共通目標

【令和8年5月8日】

授業作り	重 点	タブレット端末を有効活用し、基礎・基本の定着に取り組む。
環境作り		思考力・判断力・表現力等の伸長と学習意欲の向上に向け、授業展開の工夫改善を行う。 授業規律を徹底するとともに、きめ細かく生徒を見取り、健全育成を推進する。 日常的な協働活動をとおして、自己を磨き、仲間と相互に成長しあえる集団を育成する。

■ 各教科の取組について

教科	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子などから)	目標達成のための取組
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査において、第3学年の平均点は全体的に区の平均点を上回っているが、状況や自分の思考に沿って記述することには課題がある。 ・新宿区学力定着度調査において、第2学年の平均点は全体的に区を下回っており、文章の要旨を理解し、まとめる力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読むときに留意すべきポイントを都度確認し、様々な文章にふれて実践を積んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストの定期的な実施 ・小作文 ・フラッシュカード ・デジタルドリルを活用した、漢字・語句・文法の反復練習 ・前の学年での既習事項の復習
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ・第3学年は新宿区学力定着度調査において平均点は全体的に区の平均点を上回っている。図形、関数の分野では正答率が低い傾向にある。1年次から比べ、2年次ではB層、C層、D層の割合が減った。 ・第2学年は新宿区学力定着度調査において、基礎、応用とも区の平均点を下回った。C層、D層の合計が66.1%で過半数を超えた。また、基礎分野での得点の開きが大きく区の平均と比較すると10%下回った。基礎・基本の定着が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3学年は、デジタルドリルなどを活用して視覚的に図形、関数を捉える場面を増やしていく。また、引き続きC層、D層が減少するように基礎学力の定着を図る。また、数学的思考判断力が鍛えられるような発問の工夫とグループワークでの協働学習を取り入れ、A層、B層が増加するよう努める。 ・第2学年は、家庭学習などに粘り強く取り組むことが苦手な傾向にある。そのため、短時間でできるような課題で家庭学習の習慣を確立する。また、デジタルドリルなどを活用して、基礎・基本の復習と共に自己肯定感の向上を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリルを活用した復習 ・グループワークでの協働学習 ・復習プリントによる反復練習 ・継続的な小テストの実施
理 科	<ul style="list-style-type: none"> ・第3学年は、新宿区学力定着度調査において、基礎、応用とも区の平均を上回った。特に応用分野では10点上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3学年は、実験や考察などの話し合い活動に意欲的に取り組むことができる生徒が多いため、「思考力・判断力・表現力等」の 	<p>第3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝学習（10分間）におけるデジタルドリルなどの短答式の学習

	<ul style="list-style-type: none"> 第2学年は、新宿区学力定着度調査において、基礎、応用ともに区の平均を下回った。特に応用分野での得点の開きが大きかった。 	<p>向上に影響したと考えられる。今後は、知識・技能を高めるため、重要語句の確認や実験・観察の技能の習得を確認する場面を増やしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2学年は、授業に集中して取り組んだり、家庭学習などにも粘り強く取り組んだりすることが苦手な傾向にある。それが「思考力・判断力・表現力等」の向上に影響していると思われるため、授業展開や発問を工夫し、問題解決や論理的にデータを分析する場面を増やしていく。 	<p>第2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 少人数グループによる活動 深い学びにつながる発展学習や読解力問題への取組 科学的事象に対し、それを確かめるために必要な方法の構築やデータを読み取りそこから推論する問題への取組
<p>社会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年は新宿区学力定着度調査において基礎と応用が共に区の平均を上回り、一定の成果を得ることができた。しかしながらD層も17%いるため、引き続き基礎学力の定着を図り、A層、B層が増加するよう努める。 第2学年は新宿区学力定着度調査において、基礎、応用ともに平均を下回っている。ねばり強く定着学習を行い、まず基礎力の定着を図っていききたい。A層、B層もある程度いるが、D層が37.7%と一番多くしめている。まず言語能力をしっかりと定着する努力をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルドリルやワークを活用した授業や家庭学習を通じて、学力の定着を目指す。 活動型授業で、調査→思考→発表というプロセスを踏むことで基礎的知識の定着がみられたので、今年度も継続する。 講義型授業の中で、基礎事項を身に付けた上で、資料から必要な情報を読み取り、歴史的事象や自らの考えをまとめて記述する時間を設けることで、思考力・判断力・表現力を高めていく。 第3学年は引き続き授業で資料の読み取りや基礎事項の確認を繰り返し、基礎学力の定着を図る。また、教材開発を通じて生徒の社会への興味・関心を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本事項の復習を徹底 デジタルドリルの活用 ワークシートの工夫 机間指導の充実 活動型授業を行う中での発表活動
<p>英語</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年は、新宿区学力定着度調査において区や国平均は上回っているが、C層、D層の合計が50%を超えている。まず基礎の定着を課題にしていく必要がある。 第2学年も、新宿学力定着調査において国の平均は上回っているが、C層、D層の合計が50%を超えている。まず基礎の定着を課題にしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年は、基礎・基本の定着のために「単元テスト」などをこまめに行っていく。また、帯活動を工夫し、基礎の定着を繰り返し行っていく。 第2学年は、基礎・基本の定着のために単語テストや単元テストを実施し、学年として苦手意識がある言語材料や表現活動について、繰り返し授業をとおして扱い、定着させていく。 	<p>第3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元テストや帯活動で基本的な文法を用いた会話練習の工夫 <p>第2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 単語テストや単元テスト 帯活動等での表現活動